

いつもライバル

関西学院大学航空部 OB 会長

齋 藤 慶 文



昭和35年関学商学部卒業
甲武エンジニアリング
株式会社社長

現在、八尾空港で空の好きな連中を集めて、セスナ172・JA4057を飛ばして遊んでいます。11月には事業用にトライしようとして訓練中ですがどうなりますか？

「汽車の窓から手を握り、送ってくれた人よりも、ホームの陰で泣いていた……」と未知なるものに対する大いなる期待と不安一杯で口遊みながら、当時の国鉄大阪駅から高松飛行場に向っていたのは昭和31年でした。合宿所の正大寺には学連関西東海支部参加各校全員が集合していて、各校先輩後輩は居たものの、随分とフランクで一体感が有り楽しい思い出となっています。文頭の歌で代表される様に、合宿ではいつも歌が付いて廻って居て、各校の校歌もそこで覚えたし、かなり卑猥な歌の数々を怒鳴ったり。中でも教官殿の姿の無い時に限って「上昇離脱でプリルにはいり、皺の伊兵衛が腰抜かす、アリヤリャコラヤと良くよく見れば皺の伊兵衛の皺がない。今のは誰れだ!! ハイ鐵五郎でありますー」これで皆なで大いに楽しんだものでした。

と言う様な訳で私の現役の頃は、合宿が最初からの3年間では高松での各校全員の合同であり、4年と同時に中央研究所の第1期生として、八尾の格納庫で、関西、関東、九州の連中と共に生活していたので、他校と云う意識が薄くなり、返って他校の仲間に気の合う友達が出来て今に至っている有様です。従って当時より貴同志社に対して特に思い入れはないのですが、唯教官殿は全て同志社出身と云う事で大変お世話になりました。初合宿よりのパチンコでは、当時学生教官だった北尾直敬教官、ウインチに上りさらに八尾での直曳に至るまでの牧野鐵五郎教官、さらに何時も何処かで見張られていた牧野伊兵衛教官、それぞれ大変良い思い出として、大切にして行こうと思っています。

関西学院から見た同志社と云う事で宿題を頂いたので諸先輩諸兄の御叱責を覚悟の上で私の感想を述べれば「優等生が多いな」と云う事で、逆に考へれば、組織が確立していて、良く機能しているんだなと思いますが、反面豪快な仲間も出て来て欲しいとも思います。関学としても貴校を見ならって組織の活性化に努め様と思っている今日この頃です。最後に空の仲間の益々の発展を願いつつ終りにします。